

連載

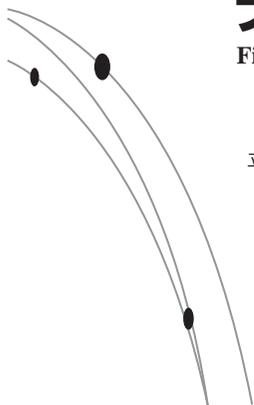
フィールド・アイ

Field Eye

メキシコから——②

立正大学教授 苑 志佳

Yuan Zhijia



メキシコにおける大都市と地方都市との落差 ——アグアスカリエンテスへの旅

「メキシコはどのような国か」と聞かれると、10人が10種類の印象を答えるかもしれない。メキシコを訪れる回数が多くなればなるほど、この国の社会的な多様性がより強く感じられる。これまで企業調査と社会調査のため、メキシコを4回訪れたことがあり、1日の短い滞在もあれば2週間の滞在もあった。国土が南北に長いという特徴をもつメキシコで、数多くの都市を訪問したが、とても自慢できない。何故なら、訪れる回数が多ければ多いほど、この国のことがますます分からなくなるからである。

おおざっぱに言えば、アメリカに隣接するメキシコの国境地帯から南方地域に行けば行くほど、経済的には徐々に貧しくなる、人種的には欧州移民系から原住民系へ変わっていくという説があるが、筆者が観察した事実は概ねその通りであった。これまで筆者が調査した在メキシコ企業の場合、たいていのところで上級管理職に就く現地人は欧州系移民に近い人種が多かったのに対して、生産現場に行けば行くほど原住民系の顔つきをした人が増えていた。これは政府系の官僚も同じ傾向を示していた。筆者はそもそもメキシコ研究には素人なので、メキシコにおける文化・人種上の画一性——スペイン語、欧州系——があるはずだと思い込んでいたのだが、必ずしもそうではないことが訪問を通じてわかった。

また、地域によってはメキシコの多様性が社会風土や治安面に反映される。多くの外国人観光客が訪れるメキシコシティやティファアナやカンクンなどでは、人の流動性が高いため、社会的多様性がある一方、治安

が悪化する。実際、われわれの調査チームのメンバーは、メキシコシティとティファアナで治安悪化による被害を経験した。最近、ティファアナやメキシコシティにおける治安悪化は深刻な問題となっている。とりわけ麻薬絡みの犯罪を象徴とする凶悪犯罪（殺人、誘拐など）が目立つようになった。日系企業が多く進出したティファアナでは、治安問題への対応について頭を抱える日系企業が少なくない。筆者は、2007年ティファアナ現地調査で、日系工場経営者からこういった話をたびたび聞いた。実際、一部の日系企業における安全対策費用は、製品コストの0.5%に達している、という。筆者が訪問調査したティファアナでは、日系企業の日本人社長が、防弾ガラスと特殊タイヤ（軍用車用）を装備する車に乗り、プロの警備要員を乗せた2台の警備車両に挟まれて移動する光景を目撃したことがある。その物々しい様子は今でも印象に残っている。

ところが、「これはメキシコだ」という認識は、必ずしも正しくない。国境都市やメキシコシティなど大都市から少し離れると、事情はかなり変わってしまう。2005年に筆者が訪問調査したメキシコ中西部に位置するアグアスカリエンテス（Agua Calientes）という町はその典型的な地方都市である。ここには日産自動車、自動変速機を製造するジャトコの海外工場がある。アメリカとカナダ市場で評判の高い日産モデル「セントラ」はここで生産されている。2005年、メキシコシティからここに来た時に「このあたりに来たら、治安面の心配はしなくてもよい」とメキシコ人の友人から進言されたが、当初は半信半疑でなかなか警戒心を緩められなかった。しかし、地方都市と大都市との差がその後、現地訪問調査を通じて分かっていった。

アグアスカリエンテスはメキシコで13番目に大きい都市圏を持ち、都市部には90万人が住んでいる、メキシコで急成長している都市の1つである。アグアスカリエンテスとはスペイン語で「熱い水（熱水泉、温泉）」を意味する。1575年に都市が建設されたとき、その豊富な湯量のためにこの名がつけられた。また、夕日が美しいことでも有名である。毎年3月下旬から4月上旬にかけて、メキシコでも有名なお祭り「フェリア デ サンマルコス（Feria de San Marcos）」がここで開催され、この時期には多くの外国人観光客が訪れる。アグアスカリエンテスには数多くの大学があり、教育熱心な州としても知られており（教育に関する諸指標はイギリスのそれより高いという）、毎年メ

キシコで一番住みたい都市の上位にランキングされている。一部の地区を除き、メキシコの他の州都に比べて治安は安定している。

周知のように、海外直接投資を行う日本の製造業企業は、望ましい工場立地として、大都市から離れた、素朴な田園地帯を選択するケースが多いが、メキシコに投資した日系企業の工場立地は、国境地帯タイプと田園地帯タイプに分かれている。国境地帯タイプの工場は、「双子工場」のメリット（アメリカ側に近いこと、管理しやすいこと、メキシコ側の安価な労賃、マキラドーラ制度の活用など）を享受するために設置されたが、田園地帯タイプの工場の場合、人的流動性が低く、伝統的な価値観があり、社会的な連帯感を持つ、などの点で、日本の社会・文化に近い要素がある。したがって、日本の生産・管理方法も持ち込みやすいという期待もあると思われる。アグアスカリエンテスはこのような理想的な企業立地の1つであると思われる。

日産自動車など日系企業の進出に伴い、アグアスカリエンテスには日本人学校も設置されている。現在約500名程度の日本人が暮らしている。日産自動車工場を設立する際に、アグアスカリエンテスを選んだ大きな理由は次の通りである。①地名（Agua-calientes）の通り、工場に欠かせない水があること（スペイン語で水はAgua）、②メキシコの中央に位置しており、国内外各所へのアクセスがよいこと、③労務費が競争力のある水準であること、④労働組合と企業との関係が良好な地域であること、⑤州からの援助があったこと¹⁾。日産自動車の進出によってアグアスカリエンテスと日本とのつながりが徐々に強まっている。現在この地域に住んでいる日本人数は外国人としては一番多く、日本人のイメージも大きく変わっている。筆者らは訪問調査の際、アグアスカリエンテス州の経済開発庁長官に招かれ、訪問目的や研究関心などを熱心に聞いてもらった。また長官はアグアスカリエ

ンテスの競争優位について懸命にアピールしてくれた。それによると、アメリカに隣接する国境都市に比べてアグアスカリエンテスのような地方都市には、安価で良質な労働力や人々の勤勉さと若さ、とりわけ安定的な社会風土と良好な治安というビジネス環境が存在している、という。

最近、米墨国境の日系企業に勤める日本人従業員の場合、生活の基盤をアメリカ側に置き、毎日国境を超えて通勤するのがよくあるパターンとなっている。その背景には国境地帯のメキシコ側の生活環境がきわめて悪化したことが挙げられる。しかし、前述のように、アグアスカリエンテスには500名以上の日本人が暮らしているが、ここの治安状況はまるでメキシコではないように思われる。夜でも市民は平気で町に出かける。われわれも仕事の後、メキシコ風のパブを体験した。派手な民族衣装でメキシコの楽器を演奏するバンドのショーを観賞しながら、コロナやテキーラを楽しむ、という休息スタイルは、メキシコ調査ならでの贅沢さである。パブでは頼んでいない地元産のテキーラが次々と運ばれてきたので、何か間違ったのではないかと尋ねたところ、「遠い日本からのお客様へのサービスだ」と説明してくれた。後ほどわかったが、この地方の町では、外国人とりわけアジア系の観光客がめったに見られないので、地元のテキーラを是非味わってもらいたい、という南米ならではの情熱的なサービスだった。この町の人々は日本人に対してきわめてフレンドリーであった。

1) 日産自動車のホームページ (<http://www.nissan.co.jp/>) による。

えん・しか 立正大学経済学部教授。最近の主な著作に『ラテンアメリカにおける日系企業の経営』（共著、中央経済社、2009年）。国際技術移転、アジア・中国経済専攻。